

発展性があり探究的な学びにつながる課題設定の工夫

統合的・発展的に考える力を育むためには

小学校学習指導要領解説算数編には、統合的・発展的に考える力の重要性が示されています。この力の育成において重要になるのは、学びの連続性です。



**統合とは...**  
異なる複数の事柄をある観点から捉え、共通点を見だし、一つのものとして捉え直すこと。

**発展とは...**  
絶えず考察の範囲を広げていくことで新しい知識や理解を得ようとする。

子供のこんな姿!!

〇〇と△△には、共通点があるね!  
〇〇と△△は、同じことだ!

他の図形でもできるのかな?  
違う数の時も使えるのかな?

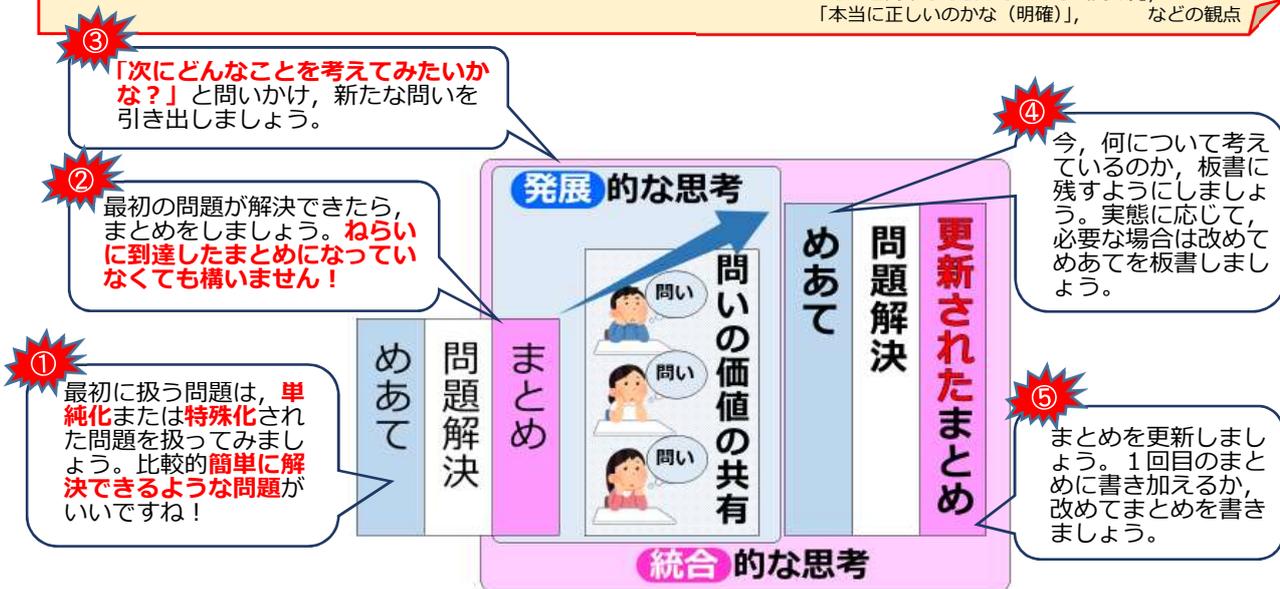


**ポイント!** 段階的なまとめによる授業デザイン

1 時間に 1 つのめあてとまとめではなく、1 時間 (または数時間) の中で、めあてとまとめを繰り返し、段階的にまとめを更新していくイメージです。授業の中に、児童自らが統合的・発展的に考える場面を設定します。

まずは**発展的な思考を働かせる場を設定することが大事です。**

- なかなか問いが出てこないとき ⇒ 初めは教師が問いの方向性を示してもいいかもしれません。(いつでも使えるのかな、簡単な方法はどれかな、など)
- 問いが数多く出されて絞れないとき ⇒ どの問いを解決すべきか、**問いの価値**を共有して絞っていきましょう。  
↳ 「ちがう数、場面でもできるのかな (一般化)」、  
「もっと簡単な方法はないかな (簡潔)」、  
「本当に正しいのかな (明確)」 などの観点



1 回目と 2 回目の問題解決した結果を**統合的に**考えて、**まとめを更新**しましょう。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

与えられた問題を解決していただくだけでは、統合的・発展的に考える力を育むことはできません。児童自らが統合的・発展的な思考を働かせる場面を設定することで、その力が高まっていきます。

- ・ 発展的な思考を働かせる場の設定  
⇒ 発問「次はどんなことを考えてみたいかな?」「そのことを解決するとどんないいことがあるの?」など。
- ・ 統合的な思考を働かせる場の設定  
⇒ 発問「2 つの考え方で似ている (同じ) ところはないかな?」「いつでも使えるのはどちらの方法かな?」など。